

## 【 所 感 】

長崎市議会議員 柳川八百秀

### 欧州総合環境問題調査を終えて

平成 22 年度の公職研が主催する地方公務員のための職員研修・海外派遣の欧州総合環境問題調査に 11 月 7 日より 8 日間の日程で参加してきました。

職員研修の海外派遣に初めて参加しましたが、さすがに実務的な具体的な研修が中心の調査でした。その内容は最前線の現場での研修が中心で実際に担当している職員から説明を受け現場の実態が理解できた視察でした。

今回の研修に参加するにあたり、研修の他にそれぞれの国の歴史や文化を肌で感じる調査にしようと思いこの調査団に参加しました。所感では、その様な視点を中心に感じたことを報告させていただきます。

まず、ロンドンでの乗り継ぎの時間が 3 時間必要との事でした、その理由は、イギリスのテロに対する警戒は最高レベルで厳しかったため、空港での手荷物検査やセキュリティー検査、ボディー検査では、時計、ベルト、靴、着衣以外はすべてカゴに入れて X 線を通っても、ブザーが鳴りボディータッチの再チェックを何度も何度も大変でした。関係国のテロ対策に対する警戒を実感いたしました。

▲8 日の朝、フランクフルトの朝は小雨で肌寒い天候でしたが、早めの朝食を済ませ、中央駅に出かけてみました。駅前と駅の朝の雰囲気を感じてきました。



中央駅前



電車到着



朝の通勤ホーム

8 時 30 分出発でヘッペンハイムの清掃工場へ行き調査を行ないました。調査終了後、次の調査地のカールスルーエに向かう途中のハイデルベルグの街で昼食をとりました。

ハイデルベルグの街の印象は中世のバロック様式の町並みが残った歴史を感じる街で、高台 80m にはハイデルベルグ城跡が印象に残る街でした。



城



町並み



ワイン樽 (大樽)

▲9日のカールスルーエの朝もどんより曇った小雨のため、朝の散歩は中止しましたのでホテルとホテルの窓からの景色を紹介します。



宿泊したホテル



ホテルの窓から



バス

ホテルを9時に出発し市役所へ、カールスルーエではビオトープなど都市の緑化について午前・午後と一日調査を行ないました。感想としてこの街が都市の緑化・緑のネットワークに力を入れているかを実感しました。都市住宅と緑のベルトが一体化した開発が行なわれております。

18時発のIC I-279の高速鉄道でスイスのベルンへ向け2時間56分、約3時間列車の移動となりました。



高速鉄道



ホームのゴミ箱

▲10日朝、今日の出発予定が9時なので、朝7時過ぎから近くに出かけてみました。ベルンはスイスの首都で町全体が世界遺産の歴史を感じる街でありながら路面電車の乗り場には大屋根がかけられてありました。夕方からの市内の文化施設や世界遺産の視察が楽しみです。



電停の大屋根



路面電車



朝の街並み

アーレ川の視察終了後、ベルン市内の世界遺産を調査しました。

スイスの首都で人口は127,000人で、ベルン州の州都でもあり、スイスの連邦議会議事堂の所在地で、1983年に旧市街が「ベルン旧市街」の名でユネスコの世界遺産（文化遺産）として登録されております。アインシュタインが特殊相対性理論の論文を執筆したアインシュタイン・ハウスがある町。

さすがに街自体が世界遺産に登録されただけあり、歴史と文化を感じさせる街で、噴水が目立つ街です。



連邦議会前にて



アインシュタイン・ハウス



噴水

▲12日の調査終了後と13日の帰国日前の時間を利用しパリ市内の文化施設や街並みなどを視察しました。



ルーブル美術館前にて



ノートルダム大聖堂前にて



エッフェル塔前にて

### <おわりに>

環境問題の調査についても言葉の壁はありましたが、各国の取り組み姿勢や考え方、現場の担当者から直接聞くことが出来、有意義な研修・視察となりました。

また、朝夕の時間を有効に使い積極的に街の雰囲気や生活状況を感じようと計画的に行動が出来ました。食べ物も現地の名物料理を食べようと思い添乗員さんをお願いし目的を果たすことが出来ました。

この経験を今後の活動と長崎市の暮らしやすい街づくりに活かしていきたいと思っております。このような機会をもてましたことに対し心より感謝を申し上げ報告とさせていただきます。